

2009 年度(平成21年度)北海道地区大会を開催した。

開催日:2010年2月20日(土)

開催場所:北海道大学・低温科学研究所

参加者:33名、

若手発表:12名、一般講演:2名

若手発表

「南インドレフュージア仮説を支持するツムギアリの系統地理」 朝香友紀子(北大・院・環境科学)、東典子(北大・女性研究者支援室)、東正剛(北大・院・環境科学)

「アカネズミのタンニン耐性の地域比較」 泉佳代子(北大・院・環境科学)、島田拓哉(森林総研・東北)、齊藤隆(北大・FSC)

「有珠火山の噴気孔域における土壌理化学性と植生の回復」 川久保恵理(北大・院・環境科学)、山東豪(北大・院・環境科学)・小川洋平(北大・院・環境科学)、三好裕司(北大・院・環境科学)・春木雅寛(北大・院・環境科学)

「網走地域のキタキツネの食性に関する研究」 近藤 慧(東京農業大・生物産業学研究科)、白木彩子(東京農業大・生物産業学研究科)

「有珠火山ジオパーク新旧火口における森林植生および土壌生成」 山東豪(北大・院・環境科学)、春木 雅寛(北大・院・環境科学)、川久保 恵理(北大・院・環境科学)、小川 洋平(北大・院・環境科学)、三好 祐司(北大・院・環境科学)

「局所スケールと地域スケールにおけるエゾヤチネズミ個体群の空間的遺伝構造の違い」 銭谷純平(北大・院・環境科学)、齊藤隆(北大・FSC)、石橋靖幸(森林総研・北海道)、Anna Pauline de Guia(フィリピン大学)、河合久仁子(北大・FSC)、大西尚樹(森林総研・東北)

「エゾシカ個体群の分布拡大に伴う最近15年間での遺伝的構成の変化」 竹川聡美(北大・院・環境科学)、永田純子(森林総研)、増田隆一(北大・院・理)、宇野裕之(道環境科学研究センター)、齊藤隆(北大・FSC)

「小規模分断林におけるエゾリス(*Sciurus vulgaris orientis*)の分布:生息地の面積が重要か質が重要か?」 館絢花(北大・院・環境科学)、齊藤隆(北大・院・環境科学)

「北海道東部における絶滅危惧サケ科魚種絶滅危惧種イトウの減少要因と保全への提言」 野本和宏(北大・院・環境科学)、小泉逸郎(北大・院・環境科学)、深谷肇一(北大・院・環境科学)、秋葉健司(HuchoWorks)、大光明宏武(イトウ生態保全研究ネットワーク)、江戸謙顕(文化庁)、東正剛(北大・院・環境科学)

「釧路湿原大島川周辺におけるエゾシカ生息痕跡の分布特性と時系列的変化」 橋田金重(北大・農)、富士田裕子(北大・植物園)、高田雅之(道環研)

「日本太平洋沿岸のイワフジツボ属における個体群動態の地域間比較:季節性とその緯度勾配」 深谷肇一(北大・院・環境科学)、堀正和(北大・院・環境科学)、山本智子(北大・院・環境科学)、仲岡雅裕(北大・院・環境科学)、野田隆史(北大・院・環境科学)

「シジュウカラ(*Parus major*)の産卵数と育雛数の差が示す生態学的意味」 油田照秋(北

大・院・環境科学)、齊藤隆(北大・FSC)

一般講演

「釧路湿原温根内におけるハンノキ林伐採後の植生変容」 佐藤雅俊(帯畜大・畜産生命科学)

「札幌市藻岩下で1972年から2009年までに見られたハイイロマルハナバチの減少とニセハイイロマルハナバチの増加」 永光輝義(森林総研・北海道)、渡部美佳(東京農業大学)

若手発表の審査を6名で行い、朝香友紀子氏(北大・院・環境科学)、泉佳代子氏(北大・院・環境科学)、深谷肇一氏(北大・院・環境科学)に奨励賞を授与した。

役員会、および総会を開催した。

報告事項

○2010年度(平成23年)3月開催の日本生態学会札幌大会について

実行委員会のメンバーと役割分担の報告

委託業者の選定についての報告

懇親会についての報告

○ 会計報告

2010年2月27日-28日開催の北海道若手生態学研究会(旧進化植物研究会)の支援(約14万円予定)を行なうこととした、等。

○来年度の北海道地区大会について

日本生態学会札幌大会を開催するため、例年行なっている研究発表会は開催せず、役員会、総会のみとする。事前に地区会員に総会開催の通知をする。

議題

○ 地区会予算について

日本生態学会札幌大会開催時に、地区会として独自のシンポジウムを開催するために用いたらどうかという提案があった。

地区会員に対し、5月くらいから案の募集を開始し、7月くらいまでに案を出してもらう。

○ 北海道選出の自然保護委員について